

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5 年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	基里小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校運営協議会を通じて、様々な地域の人材を活用することができ、各教科で体験活動や交流活動に取り組むことができた。今年度は、更に、キャリア教育に繋がる人材活用と学習の機会を持ちたい。 ・校内研究を軸にし、一人一人の教職員が主体的に授業力改善に取り組んできた。今年度も家庭や地域と連携して、情報モラル教育や読書の日常化、望ましい学習や生活習慣の形成に関する資質・能力の育成に努めていきたい。 ・校時表や行事計画の見直し、PTAや学校運営協議会との連携により、時間外在校時間を前年度の同月と比べて4時間削減することができた。しかし、市内の他校と比較すると時間外在校時間が多いため、定時退勤の厳守と時間外在校時間の削減に努めたい。 ・心の教育については、児童の生活の様子を教職員全員で細かく見ていくようにしたり、児童アンケートを実施して実態把握に努めたりし、学校・児童・保護者が一体となって「いじめを許さない」機運を高めていきたい。
2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里つ子」の育成 ～ みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう ～
3 本年度の重点目標	・地域人材を活用し、キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動を工夫することで、将来に夢や目標を持ち、地域や学校を誇りに思う児童を育てる。 ・校内研究を軸にした授業力改善を行い、児童の更なる学力向上をめざす。 ・PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、昨年度見直した教育計画を基にして、積極的に業務改善を行う。働き方改革に向けて教職員の意識を高め、時間外勤務時間の削減を実現させる。 ・小中学校児童生徒の交流活動や教職員の研修会等を行うなど、小中一貫教育の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・家庭学習の充実 ・読書の推進	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学校評価アンケートによる家庭学習の徹底率保護者・児童・教師各々90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着を図る。 ・「図書館まつり」等を企画し、貸し出し冊数の増加と共に読書ジャンルの広がりを推進する。	B	・学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成している(27.8%)だいたい達成している(83.8%)と答えているが、だいたい達成の方が多くなっている。 ・家庭学習の手引きを活用していると答えた児童が70%程度、家庭学習時間を守れている児童が75%程度となっているため、再度手引きについて周知する必要がある。 ・読書週間については、85%の児童が本をたくさん借りて読んでいると答えていることから、普段の図書館教育や図書館祭りなどのイベントにより読書習慣は身に付いていると考える。	B	・学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成している(13.6%)だいたい達成している(81.8%)とあり、引き続きだいたい達成の方が約8割となっている。 ・家庭学習時間を守れているという項目に対して、児童は80%程度、保護者は75%程度にとどまっていることから、家庭学習の量と質について手立てが必要だと考える。 ・家庭学習の手引きの活用は、上学年は70%程度、下学年は約50%にとどまっている。年度当初に配布したものが十分活かされていない。年度当初に配布し、学級懇談会で周知徹底をする以外の手立てが必要だと考える。 ・読書については、学年により差があるが、74～86%の児童がたくさん借りて読んでいると答えており、読書習慣が身に付いていると考える。	B	・手引きの活用が十分でないのは、家庭への周知不足が考えられる。学級懇談会で手引き活用について具体的な話をしたり、学校便り等で年に数回取り上げたりするとよいのではないかと。 ・難しい面もあるだろうが、個に応じた課題があるといふ。 ・読書習慣が身に付いていることは素晴らしい。継続してほしい。
	○主体的・対話的な学びを目指した授業力改善	○学力状況調査(算数科)、CRTテスト(算数科)における思考力・判断力・表現力等の正答率を県平均を上回る。 ○授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立てたと回答する教師90%以上	・授業作りステップ1・2・3を活用して、授業力向上を図る。 ・各教科において対話的な学びを取り入れた授業を行う。 ・校内研究を中心に児童が主体的に学び、考える楽しさを味わう授業の充実を図る。	A	・全て(100%)の教職員が、授業作りステップ1・2・3を活用して授業力向上を図ることができている。 ・教科は限定されるが、全て(100%)の教職員が、対話的な学びを取り入れた授業を行うことができている。 ・学力向上のため、今後も、「児童が主体的に学び、考える楽しさを味わう授業」を意識して継続していくことが必要だと考える。	A	・全ての教職員が、授業作りステップ1・2・3を活用して授業力向上を図ることができていると回答している。 ・全ての教職員が、対話的な学びを取り入れた授業を行っていると回答している。 ・研究授業の実施や講師を招いての授業研究会において「児童が主体的に学び、考える楽しさを味わう授業」について考え、実践を続けてきた成果であると	A	・児童主体の、考える楽しさを味わわせる授業をするために、研究を進め、実践されていることが評価できる。 ・授業参観等では、児童どうしが話合っている場面を見ることが多くなった。主体的に学ぶ姿が身に付いているのを感じる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 ●アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がある」と答えた児童85%以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・友だちを「～さん」で呼ぶようにし、思いやりの心をもたせる。 ・人権集会を行ったり、人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもつ。	B	・100%の教師が、道徳に関するアンケートにおいて研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫しながら日頃の授業研究に努めていると回答している。 ・アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がある」と答えた児童は、低学年が75.5%、高学年が83.4%だった。今後、今まで以上に児童の心に寄り添い、何でも話せる人間関係づくりに努めていきたい。	B	・100%の教師が、道徳に関して研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫しながら日頃の授業研究に努めていると回答していることから、工夫された道徳の授業が行われていると考えられる。 ・アンケート結果を受けて、今まで以上に児童の心に寄り添い何でも話せる人間関係づくりに努めてきたが、学級によって取り組みに差があるように感じる。来年度は、児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けるためのより効果的な教育活動を仕組んでいく必要があると考える。	B	・道徳の授業で学んだことをぜひ家庭での話題にしてほしい。これからは授業参観での公開を続けてほしい。 ・全ての先生方が研修を行ったり、授業研究に努めているのがよい。授業で学んだことが、日常に生かされるように期待している。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上。 ●いじめの防止、事業への対応について、組織的な対応ができていると答える教師85%以上	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの確認・周知を行い、いじめを認知・覚知した場合、いじめ対策委員会を開き、早急に対応する。	A	・100%の教員が、いじめ防止等について組織的対応ができていると回答している。 ・生活アンケートを毎月行い、いじめの実態把握を行った。気になった児童については各担任が個別に面談をし、その結果をもとに、いじめ対策委員会を開き確実に対応できた。	A	・88%の児童が「学校が楽しい」と回答している。90%には届かなかったが、前期は86%だったため、「学校が楽しい」と回答する児童が増えている。 ・100%の教員がいじめ防止等について組織的対応ができていると回答している。気になった児童については、いじめ対策委員会を開き、早期発見・早期対応、そして、長期的に対応ができたと考ええる。	A	・「学校が楽しい」と回答する児童が増えているのはよいことである。 ・いじめについて組織的対応ができているのがよい。被害・加害のどちらの児童にも家庭と連携しながら十分な対応をお願いしたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとしたり、一人一人のよさが認められたいりするような教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り一言コメントを保護者に書いてもらうなど、保護者が知る機会を増やす。 ・目標をもって中学校に進学するための交流や体験活動を可能な限り行っていく。	A	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとしたり一人一人のよさが認められたいりするような教育活動を行っているとして自己申告する教師の割合90%以上。今後も、全職員が児童の良さががんばりを積極的に褒めていよう努力する。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童84%。今後、キャリアパスポート等を活用し、自分の立てた目標について振り返るなど、夢や目標について考える機会をもたせていく。	A	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとしたり、一人一人のよさが認められたいりするような教育活動を行っていると回答した教師の割合91%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について90%の児童が肯定的な回答をしている。道徳の授業やキャリアパスポート等の活用をして自分の立てた目標を振り返ったり今後の目標を立てたりした成果であると考える。	A	・夢や目標について考える機会があることがよい。外部人材等も活用していくと、更に効果的ではないだろうか。 ・5年生児童が福刈りのあとに行った「夢をおらべ」の企画において、自分の夢をはっきりと述べていたことに感心した。
	●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上 の児童生徒60%以上	・体育委員会を中心に、外遊びを推奨するイベントを企画・実施して、みんなで運動することの楽しさを味わうことができる場を設定する。 ・外遊びを奨励する掲示物を校内に掲示して、児童の意欲喚起を図る。	A	・体育委員会主催として、前期に全校遊び(ケイドロ大会)、11～12月に「ドッジボールラレー」を全校の共通実践として取り組み、記録表の掲示や記録会の開催をした。また、縄跳びジャンプ台を中庭に設置して縄跳び遊びも推奨してきた。その結果、73.7%の児童が「休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上」と回答した。 3学期は「みんなで縄跳び週間」を設定して、引き続き全校児童に楽しみながら運動することを推奨していく。	A	・体育委員会が中心となって、1学期に「全校遊び(ケイドロ大会)」、2学期に「ドッジボールラレー(スポーツチャレンジ)」、3学期に「みんなで縄跳び週間」を設定して、全校児童が楽しみながら運動することを推奨してきた。その結果、74.8%の児童が「休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上」と回答した。毎学期、児童主催のイベントや取り組みを、全校で共通実践できたことで、数値目標の60%を上回ることができたと考える。	A
○望ましい生活習慣の形成		○1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	・保健便りや校内の掲示物を通じて睡眠の大切さを児童に呼びかける。 ・学年便りで、生活リズム(特に睡眠)について、毎学期始めに保護者にもお知らせをして、家庭でも協力していただける体制をつくる。	A	・1日の睡眠時間について、1～3年生は9時間以上が85.6%、4～6年生は8時間以上が83.9%で、ともに80%以上となり目標を上回った。 ・保健便りや掲示物を通じて睡眠の大切さを児童や保護者に呼びかけた。また長期休み前や学期はじめには、生活リズムについての話をし、お知らせを配布した。	A	・1日の睡眠時間について、1～3年生は9時間以上が87.2%、4～6年生は8時間以上が86.0%で、ともに80%以上となり目標を上回り、中間評価時の数値を上回った。 ・児童朝会で児童保健委員会が健康な身体作りについての劇をして、その中に睡眠の大切さについても説明を加えた。また保健便りや掲示物のみではなく、学年集会等で睡眠の大切さについて話をし、学校全体で呼びかけを行うことができた。	A	・睡眠時間について、目標を上回る結果となったことがよい。 ・成長期の児童にとって、十分な睡眠をとることは重要である。 ・ゲームやSNS利用で、寝る時刻が遅くなるようである。家庭の協力も得ながら睡眠の大切さについて、これからも考えさせていってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・昨年度の月平均時間外在校時間を3時間減らす ・18時45分まで(定時退勤日は17時30分)に退勤完了が実施できている職員9割以上	・昨年度見直した校時表を有効に活用し、放課後の業務を効率的に行う。終了時刻を設定して、会議等を行う。 ・定時退勤日について保護者や地域への周知を図る。 ・教職員に施設完了時刻や定時退勤日を掲示物等で知らせ、意識改革、行動化を図る。	B	・昨年度の月平均時間外在校時間を3時間減らすことはできている。 ・18時45分まで(定時退勤日は17時30分)までに退勤を実行している職員は78%である。施設時刻を掲示し、退勤30分前には声掛けを行っているが、今後は1時間前にも声を掛けることで退勤時刻を意識し効率的に業務が行えるようにしていく。	B	・昨年度の月平均時間外在校時間を3時間減らすことはできている。 ・見直した校時表や休業期間を有効に活用し、見直しをもつて業務を効率的に行っていると回答した職員は100%。しかし、18時45分まで(定時退勤日は17時30分)に退勤完了が実施できていると回答した職員は82%と、数値目標をわずかに下回った。更に、業務改善の視点を持った業務の見直しと意識改革が必要であると考える。	B	・教員不足の話をよく耳にする。先生方の健康は、児童にとっても大事なことでアル。心身共にリフレッシュできる機会、時間をできるだけとっていただきたい。 ・先生方でなくてもできる仕事があれば、協力したい。
	○ICT機器の活用	○ICT機器を授業や業務に活用できている職員の割合80%以上	・勤務の効率化を行うために、職場環境を整備し、データの監理・整理を行う。 ・ICT機器(PC、タブレット)を授業や業務に効果的に活用する	A	・タブレットの活用方法を職員研修で学んだり、研究会で実際に使用したりすることで、ほとんどの職員がICT機器を授業や業務に活用できている。 ・データの管理・整理については、今後さらに進めていきたい。	A	・情報教育担当者を中心に、効果的な活用法を紹介し合うことで、職員はICT機器を授業や業務に積極的に活用することができた。 ・データの管理・整理を進め、職場環境を整理し、可能なところから業務改善に努めている。	A	・ICT機器の活用等、積極的に取り組んでいるところがよい。工夫した授業を行っていたことで、児童の力を伸ばすことができると思われる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観で年1回は教科「日本語」の授業を行う。 ・学年通信や学級通信で、教科「日本語」に関わる情報を学期に1回以上載せる。	B	・教科「日本語」の授業を公開した学級は90%となり、目標を上回った。 ・教科「日本語」の学習に関して「知っている」と回答した保護者は86.9%だったが、学年・学級通信等で、教科「日本語」に関わる情報を3回以上掲載した学級は45%となり、目標を下回ってしまった。	B	・100%の学級が教科「日本語」の授業を公開しており、目標を上回った。 ・教科「日本語」の学習に関して「知っている」と回答した保護者は86.9%だったが、学年・学級通信等で、教科「日本語」に関わる情報を3回以上掲載した学級は45%となり、目標を下回ってしまった。	B	・学校運営協議会委員は、100%知っている。 ・学年・学級通信等で知らせていただく、家庭でも話題にすることができ、学びが深まると思う。
○小中一貫教育の充実	○学びと体と心の充実 ・特別支援教育・生徒指導・教育相談の連携 ・学力向上、交流活動の連携	○保護者による学校評価アンケートで「小中一貫教育に取り組んでいることを知っている」の回答を85%以上 ○小中合同研修会で児童生徒理解が深まったと回答する教員を80%以上	・授業の約束や家庭学習の手引き等を小中で情報共有をしなが実践し、授業規律の徹底と授業改善を行う。 ・オンライン研修会も取り入れながら、小中合同研修会を6回開催し、連携を密に行う。	B	・保護者による学校評価アンケートで「小中一貫教育に取り組んでいることを知っている」の回答は94.7%。小中合同研修会で児童生徒理解が深まったと回答する教員は88.9%であり、数値目標は達成できた。しかし、授業の約束等の徹底や見直しがまだ十分ではない。	A	・保護者による学校評価アンケートで「小中一貫教育に取り組んでいることを知っている」の回答は95%。小中合同研修会で児童生徒理解が深まったと回答する教員は95.5%であり、前期よりも高まり、十分数値目標は達成できた。児童生徒理解はもちろん、合同研究の取り組みが進んでいることは成果といえる。	A	・積極的に取り組んでいるのが分かる。小中一校ずつの基里のよさを、今後も生かして取り組んで欲しい。

様式1(小・中)

	○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○コミュニティ・スクールの4つの柱(学習支援・行事体験・環境整備・地域の安全・安心)が活発に行われていると感じた教員・保護者・学校運営協議会委員の回答率85%以上	・学校行事等において、積極的に学習支援の協力依頼を行う。(お茶摘み体験、スポーツテスト、運動会、交通安全教室、生活科・総合的な学習等の学習支援) ・「基里っ子見守り隊」による登下校の安全確保を依頼する。 ・活動についての情報公開を積極的に行う。(コミュニティ便り、HP等)	A	・様々な学校行事において、PTAや地域の方に学習支援の協力をしていた。そのため、学校だけではできない体験活動を充実させることができた。 ・職員の100%がコミュニティ・スクールの4つの柱が活発に行われていると回答し、保護者の83%がコミュニティ・スクールとして推進していることを知っている。今後更に情報公開に努めたい。	A	・職員の100%がコミュニティ・スクールの4つの柱が活発に行われていると回答し、保護者の85%がコミュニティ・スクールとして推進していることを知っている。また、児童の93%が学校生活を地域の方に支えてもらったり応援してもらったりしていると回答している。PTAや地域の方に様々な学校支援をしていただいている成果であるといえる。	A	・コミュニティ・スクールについての理解が高いことはすばらしい。 ・学校行事への地域の参加や地域の人材を活用した授業を活発に行うことができるようになってきた成果が表れている。
--	---------------	-----------------	---	--	---	--	---	--	---	---

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5	総合評価・ 次年度への展望	・地域人材を活用し、様々な体験活動や交流活動を工夫することができた。次年度は、キャリア教育に繋がる体験活動や交流活動となるよう更に工夫していきたい。 ・児童の主体的な学びを実現するために校内研究を軸にして教職員が切磋琢磨しながら授業改善に取り組んできた。次年度は、更に児童の学力向上をめざす。 ・PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、見直した教育計画や校時表を基にして積極的に業務改善を行った。昨年度より時間外勤務時間の削減ができた。次年度は、更に働きやすい魅力ある学校となるよう業務改善を図りたい。 ・「5・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など児童生徒の交流活動ができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けることもできた。次年度は、研究発表会開催とあわせ、小中一貫教育の一層の充実を図りたい。
---	------------------	---